

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

嶮山小通信

3月号

横浜市立嶮山小学校

TEL:902-7161,7162

FAX: 904-4254

令和 3年 2月 26日

校長 山口 昭代

ホームページアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

「嶮山」を越える

学校長 山口 昭代

3月になりました。令和2年度の年度末を迎えます。

今年度は、簡単には表現できないほど、衝撃的な一年間となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止を強力に進める、制限の多い毎日でしたが、「自分にできること」を強く意識して、嶮山小の子どもたちは、実によく頑張りました。

春夏秋冬、巡る季節を問わず、マスクの着用、日に数度の丁寧な手洗い、友達や周囲の人々とのデイスタンス、寒くても換気、黙していただく静かな給食時間、そして、教科学習は、音楽も体育も社会も生活科も総合的な学習の時間も、今までとは明らかに異なる新学習様式となりました。授業にかかわってくださる人々と触れ合う機会も少なくなり、何より、頬がくっつくほど大声で笑い合ったり、膝を突き合わせて話合いに興じたりする、友達との楽しい時間が減ってしまいました。マスクの下で、届かない微笑みや伝えきれない声援を、ぐっと我慢する子どもたちがいました。先生たちの声のかけ方も、ずいぶん抑制された静かなトーンに変化しました。それらを全部ひっくるめて、日々に不安や焦燥を感じる子どもたちも、いたことと思います。

さて、これらすべての出来事は、「嶮」である・・・私はそう感じています。昨年、1月の終わり頃、突如目の前にそびえ立った「嶮」。厳しくて、苛酷な試練。でも、乗り越えねばならない嶮しい山。

<厳しくとも険しくとも、覚悟をもって果敢に学びを進めなさい。乗り越えたその先に出会えるものが本物の喜びや楽しさや幸せです。生きる力です。>という先達が込めた嶮山への思い。この学校を「嶮山小学校」と名付けた多くの人々の熱い願いと重なります。

児童のみなさんにとって、今年度が、決して「コロナ対応だけの一年」に留まらず、どんな時だって、「いま、自分にできること」に力いっぱい挑んできた一年だったと思えるように。「嶮山」を越えようと、確かに、その一歩を踏み出してきた、忘れがたい時間だったと思えるように。一人ひとりの、みなさんの努力を心から讃えたい気持ちです。



もうしばらく、具体的な感染症対策を実践しながら、自分自身のいのちと健康を守り抜くための行動に集中していきたいと思えます。その上で、今年度をしっかりと振り返り、令和3年度を迎えるための準備を整えるつもりです。

6年生には卒業が迫ってきています。5年生、4年生、3年生、2年生、1年生にも、立派に進級する4月がまもなく訪れます。希望の春は、すぐそこです。

保護者のみなさま、地域のみなさま、関係のみなさま、一年間大変お世話になり、ありがとうございました。3月18日に本校を卒業する6年生を、それぞれの場所でお祝いいただくことができましたら幸いに存じます。今月も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。